

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西原中】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	各教科で昨年度より知識・技能領域の正答率は向上したが、全体の正答率で見ると、昨年度比マイナスの教科もある。これは、思考・判断・表現の面で不足している面がかなり強いと考えられる。振り返りやグロウスログの活動が生徒の中に定着しつつあるので、次年度もこの取組を継続、強化していくことが望まれる。また、朝の学習としてのスタディサプリや、その他の機会でのドリルパークの活用を続けていく。
思考・判断・表現	定着した基礎知識を活用させることで、思考力が伸びていくことは、今年度の数学「データの活用」領域の昨年度比の伸びが表している。振り返りカードで学びを言語化しながら理解を深めるとともに、授業の中で知識・技能の活用場面を意識的に設定し、アウトプットを繰り返すことで思考力や表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	年度初めは、グロウスログの導入に伴い、家庭学習時間の減少が心配されたが、1月の質問紙調査において、計画的な学習について、昨年度より回答が向上した。生徒の自主的な学習への意欲の向上と、教員の働き方の改善のために、グロウスログの取組を継続しながら、より双方の負担が少ない形を考えていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」に関する設問について、正答率をR4年度比でそれぞれ2pt向上させる。	⇒ 各教科の授業で基礎を徹底するとともに、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」も活用して、基礎的な内容に繰り返し取り組ませる。また、「グロウスログ(Growth Log)」を活用して、生徒の家庭学習の取り組み方について指導・助言を行う。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語「話すこと・聞くこと」及び数学の「関数」「データの活用」において、正答率をR4年度比3pt向上させる。	⇒ 「YWT」による振り返り(Y:「やったこと」W:「わかったこと」からなかったこと」T:「次にやること」)や「グロウスログ」で家庭学習等の記録を自分の言葉で記述させる時間を毎日設けることで、自分の学びを振り返るとともに、思いを言語化する場面を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査質問紙調査の設問「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」に対する肯定的な意見を60%以上にする(R4年度:約55%)。	⇒ 基礎基本を徹底したわかる授業を行うとともに、「YV」による振り返りや「グロウスログ」を用いて自分の学習に対する見直しを持たせ、学習の意欲を高めさせる。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語・数学の「知識・理解」に関する設問で、1年が国語:+10.2/数学:-3.5、2年が国語:+15.1/数学:+4.9であった。授業・家庭学習の両方で学習の振り返り活動を継続し、効果が表れつつあるものと考えられる。	A
思考・判断・表現	国語「話すこと・聞くこと」では、1年:+5.2、2年:-6.5であった。数学では「関数」で1年:-19.5/2年:-13.3、「データの活用」で1年:昨年度出題なし/2年:+11.2であった。年度ごとの設問の難易度差もあるが、基礎知識を利用する点にはまだまだ課題が残った。	C
主体的に学習に取り組む態度	設問「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」に対する肯定的な意見は、60.8%(1年:60.2%/2年:58.0%/3年:64.3%)であった。「グロウスログ」の導入により、強制される家庭学習から、自分で考える家庭学習に習慣がシフトし、計画的な学習が定着しつつあると考えられる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	知識・技能の面では、国語の正答率は昨年度比5pt低下したが、情報の扱い方に関する事項での上昇となった。数学では、正答率が9pt低下したが、個別にみると数と式、関数の項目で昨年正答率が2~5pt向上した。
思考・判断・表現	思考・判断・表現に関する設問では、国語において前年度より正答率が6pt向上した。特に話すこと、書くことに関する項目、記述式問題で向上している。記述式問題での無回答率は、ほの設問で県・全国平均を下回っており、授業の振り返りでの書く活動が根付きつつあるものとする。
主体的に学習に取り組む態度	生徒質問紙によると、自宅で計画的に勉強することについて、県・全国平均を下回っているが、~42によると、これまでの授業での学びをほかの教科に生かしたり、振り返って気づいたこととして工夫している姿勢が読み取れる。基礎の確実な定着とともに、振り返りでの記述活動を引い、生徒の意欲や表現力のさらなる向上につなげていけるようにする。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	社会は市平均と同程度、他教科は市平均から2~4pt程度の正答率であった。社会の歴史分野において市平均正答率を上回ったほか、理科でも「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域でR4年度より正答率の向上が見られた。一方、数学では、全領域で昨年度比ややマイナスの正答率となったことなど、課題もある。各教科で基礎の定着をはかり、課題の解決に努めていく。
中2	理科が市平均と同程度、他教科は市平均から1~4pt程度の正答率であり、各教科で昨年度比で市平均との差が小さくなった。正答率も、国語と数学は昨年度本校比で約2~4pt向上した。領域別では、国語「言語文化に関する事項」、数学「図形」「データの活用」、理科「地球を柱とする領域」で市平均を上回り、基礎の定着が進んでいることが現れていると考えられる。これをもとに、思考力・判断力を伸ばす授業を進めていく。
中3	質問37「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対する肯定的な回答は、94.9%(前年度比+6.9%)であった。また、質問12「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定的な回答も昨年度比+8.5%と向上していた。学校課題研究で取り組んできた学習の振り返り活動の成果もあり、学習に対する姿勢や授業中の学び方が向上し、主体的に学習に取り組む姿勢が強まった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

け  
果り  
っ  
り  
の  
設  
びす  
NT  
び

は15pt  
年度より

こと・間  
ほすべて  
考えられ

、質問37  
をもとに  
き続き行